

令和4年度 学校生活児童アンケート集計結果

〈全学年〉

No.	項 目		5	4	3	2	1	計	前年度比	全校平均			学年平均					
			とてもそう思う	そう思う	ふつう	あまりそう 思わない	そう思わない			令和3年度	令和4年度	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	ひまわり あおぞら
1	学校は楽しいですか。	回答数	204	145	132	21	12	514	0.1	4.0	4.1	4.3	4.3	4.2	3.6	3.7	3.8	4.6
		割合	40%	28%	26%	4%	2%	100%										
2	進んで授業に取り組んでいますか。	回答数	178	170	120	34	12	514	0.1	3.9	4.0	4.1	4.3	4.0	3.6	3.8	3.6	4.5
		割合	35%	33%	23%	7%	2%	100%										
3	先生の授業はわかりやすいですか。	回答数	254	138	97	14	11	514	0.0	4.2	4.2	4.2	4.5	4.4	3.8	4.1	4.0	4.5
		割合	49%	27%	19%	3%	2%	100%										
4	家庭で学習に取り組んでいますか。	回答数	207	143	112	37	15	514	0.0	4.0	4.0	4.3	4.3	4.0	3.5	3.8	3.8	4.4
		割合	40%	28%	22%	7%	3%	100%										
5	先生は自分の話をよく聞いてくれますか。	回答数	260	114	113	20	7	514	0.0	4.2	4.2	4.3	4.4	4.3	3.8	4.1	4.0	4.5
		割合	51%	22%	22%	4%	1%	100%										
6	誰に対してでも、自分からあいさつをしていますか。	回答数	155	152	147	43	17	514	0.1	3.7	3.8	4.1	4.1	3.7	3.2	3.7	3.6	4.8
		割合	30%	30%	29%	8%	3%	100%										
7	友達と仲よくしていますか。	回答数	329	112	57	11	5	514	▲ 0.1	4.5	4.4	4.6	4.6	4.4	4.2	4.6	4.5	4.5
		割合	64%	22%	11%	2%	1%	100%										
8	自分の仕事（係、日直、掃除、委員会等）に、一生懸命取り組んでいますか。	回答数	286	136	65	21	6	514	0.1	4.3	4.4	4.5	4.5	4.4	3.9	4.4	4.1	4.9
		割合	56%	26%	13%	4%	1%	100%										
9	学校のきまり（廊下を走らない、名札をつける、時間を守る等）を守って生活していますか。	回答数	127	185	161	30	11	514	0.0	3.8	3.8	4.0	4.1	3.7	3.5	3.8	3.4	4.0
		割合	25%	36%	31%	6%	2%	100%										
10	運動会などの学校行事は楽しいですか。	回答数	320	84	74	21	15	514	0.1	4.3	4.4	4.7	4.6	4.5	3.7	4.3	4.0	4.8
		割合	62%	16%	14%	4%	3%	100%										
11	たてわり（つばさ学級）の活動は楽しいですか。	回答数	246	121	80	39	28	514	0.1	4.0	4.1	4.2	4.5	4.2	3.5	4.1	3.6	4.8
		割合	48%	24%	16%	8%	5%	100%										
12	休み時間は外で遊んでいますか。	回答数	193	74	117	78	52	514	0.0	3.5	3.5	4.3	4.0	3.9	2.7	3.3	3.0	3.2
		割合	38%	14%	23%	15%	10%	100%										

【考察】（１）学校は楽しいをはじめ、全体的に昨年度よりも数値が上がっている。これは、一概には言えないが新型コロナウイルスによる影響がありつつも、その状況に見合った新しい教育課程の実施も一役買っているのではないだろうか。各項目を平均の数値でとらえると、（８）自分の仕事の取り組み方や（１０）学校行事に対する数値が高い。自分から主体的に活動することで、有意義な学校生活を送っている姿があるといえる。また、コロナ禍ではあるが、工夫して新しい方法で学校行事が行われたことも、児童の高評価に繋がったのではないだろうか。（７）友達関係については数値は高いが、昨年度より微減している。クラス内で個別の支援が必要な児童との仲間関係作りも課題である。一部の保護者は、個別の支援を好意的に見るのではなく、排除するような言動もある。児童にもそういう雰囲気が伝わっているかも知れない。個別の支援の在り方については担任一人が抱え込むことなく、問題が起こったら速やかに、生徒指導部や校内支援会議、教育相談等それぞれの担当者を中心となりながら組織的な取り組みが必要である。もちろん各学級において、一人ひとりの気持ちによりそった指導を継続してしていく必要がある。また、（１１）つばさ学級での活動も数値が高く、特に本校の特色である縦割り学級については、児童も高い意識をもち楽しみながら取り組んでいることが分かる。歴史のある取り組みを今後も実態に沿う形で継続させていき、児童の成長の機会としたい。（４）の家庭学習については、タブレットを活用した課題等で、家庭の教育力の差も生じている。（３）と（５）については、児童による先生に対する評価である。児童の話に耳を傾けられる教師が多いが、わかりやすい授業については、まだまだ授業力の向上が必要である。モジュールを生かした低位の児童に対する支援や、上位の児童に対するさらなる刺激も進めていく必要がある。（６）あいさつについては、児童会からの啓発活動も工夫して行っている。笑顔を意識したり会釈をしたりするなどして児童も、そしてまずは教師も日々気持ちのよい挨拶を心掛けていきたい。（９）学校のきまり（１２）外遊びでは、昨年と変わらない数値だが、内訳はできている児童が少ないことがわかる。ルールやマナーを守ることの大切さについての指導や外遊びの工夫など、さらに進めていく必要がある。